

番号	19 平成27年度公共事業事後評価調書				担当課名[農地保全課]		
事業名	田園空間整備事業			事業主体	静岡県		
箇所名	おくはまなこ 奥浜名湖			市町名	浜松市		
事業概要							
受益面積	23,271.0ha	採択年度	平成13年度	完了年度	当初	平成21年度	
					実績	平成21年度	
事業費	前回	1,136百万円 (H18変更時)		実績	1,005百万円		
事業量	農道整備：延長1,250m、農業集落道整備：延長1,019m、農村公園緑地整備：4箇所、集落水辺環境整備：2箇所、集落緑化施設整備：1箇所、コミュニティ施設整備：2箇所、景観保全整備：1箇所、歩行者専用遊歩道整備：延長817m						
事業の目的・必要性							
<p>本地域は浜名湖の北側に位置し、みかんの産地として有名である。また、歴史資産として軽便鉄道跡地、遺跡、寺社や昔から伝承されてきた農村文化が多く存在する。これらの地域の宝を次世代へ継承していくためには、地域活動の支援とともに、都市住民にも共通資源として知ってもらうことが必要である。本事業では、地域一帯を屋根のない博物館と考え、情報発信の拠点づくりと地域活動の支援を進め、魅力ある田園空間を創造し、都市との共生を推進していくことを目的とする。</p>							
事業の効果等							
費用対効果 分析結果	前回 計画 変更 (H18)	B/C	総費用	11.40 億円	総便益	17.57 億円	基準年
		1.54	(事業費：11.40 億円)		(農業生産向上効果：0.01 億円 農業経営向上効果：0.84 億円 生活環境整備効果：0.02 億円 景観保全効果：16.70 億円)		平成18年
	事後	B/C	総費用	23.60 億円	総便益	46.59 億円	基準年
		1.97	(事業費：10.90 億円 再整備費等：12.70 億円)		(食料安定供給確保効果：0.06 億円 農村振興効果：0.08 億円 多面的機能発揮効果：46.45 億円)		平成26年
<p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間や費用分析手法の変更に伴い、総費用及び総便益額が増加した。 <p>2) 事業効果の発現状況</p> <p>《食料安定供給確保に関する効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道の舗装及び道路拡幅により運搬時間が短縮され、農業輸送経費が軽減された。 ※営農に係る走行経費節減効果：(走行経費) 事業前11,928(千円) → 事業後5,785(千円) <p>《農村の振興に関する効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道や集落道を整備することにより、一般交通の走行にかかる時間が短縮され人件費や車両経費が節減された。 ※一般交通経費節減効果：(走行時間) 2/3に短縮 <p>《多面的機能の発揮に関する効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の核施設である総合案内所の来訪者数は、平成23年度67,237人、平成24年度69,409人、平成25年度74,493人と計画利用人数47,250人を大きく上回っており、本施設の設置により地域への訪問者が増加している。 ※営農に係る走行経費節減効果：(走行経費) 事業前11,928(千円) → 事業後5,785(千円) 以上により、都市との共生が推進され農村の活性化が図られている。 							
事業により整備された施設の管理状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・総合案内所は、管理者である浜松市が、指定管理者制度で外部委託を実施（平成26年度は株式会社ヤタロー）し、適切に管理されている。 ・みかんの里資料館は、管理者である浜松市が、シルバー人材センターに管理委託を実施し、適切に管理されている。 							

事業実施による環境の変化

- ・新たな地域住民の憩いの場や学びの場を提供
事業施設が地域の伝統的な行事や農村学習、日常生活の憩いの場として利用されている。
- ・都市農村交流の活発化
事業設置施設をイベントの拠点施設として利用し、地域内の主要交通である新東名高速道路や天竜浜名湖鉄道と連携した農業体験やウォーキングが開催されるようになった。
(小さな旅：平成25年度10回開催)
- ・情報発信、直売利益
奥浜名湖田園空間総合案内所では、地域の散策コース等を紹介するパンフレットの配架等により、地域ブランドを広く訪問者へ発信している。また、当初計画していなかった特産品販売などの新たな取組への展開が図られている。
(直売所売上高：平成23年度15,758千円→平成25年度26,659千円)
- ・地域づくり活動
魅力ある農山村地域が選定される「ふじのくに美しく品格のある邑」に本地域内で5地区が登録されている。

社会経済情勢等の変化

(1) 地域社会の動向

- ・旧引佐町・旧細江町・旧三ヶ日町は、平成17年7月に浜松市に編入合併した。(12市町で合併)
 - ・平成24年に新東名高速道路(御殿場-三ヶ日)、三遠南信自動車道(鳳来峡-浜松いなさ北)が開通し、本地域への県内外からの観光交流が活性化している。
- 浜松市観光交流客数(出典：浜松市HP)
開通前(平成23年度)13,001(千人) → 開通後(平成24年度)16,590(千人)【約3割増】

てんてんゴーしぶ川(浜松市北区引佐町渋川)利用者数(出典：NPO法人「大好き渋川」)
開通前(H23年6~9月)2,743人 → 開通後(H24年6~9月)3,730人【約4割増】

(2) 地域経済の動向

- ・細江町中川地域では、環境に配慮した特別栽培米「細江まいひめ」を栽培しており、平成22年にはお米日本一コンテストinしずおか2010で入賞した。
- ・三ヶ日町では、三ヶ日みかんのブランド化への取組みの一環として「みかんの花咲く三ヶ日ウォーク」や物産展等の「みかんの里まつり」など地域の農村資源を活かしたイベントを開催している。
- ・天竜浜名湖鉄道駅や新東名高速道路の浜松SAでは、地場産の農産物や加工品が販売されている。

対応方針(案)

(1) 評価結果

- 事業効果は十分に発現しており改善措置の必要はない。
- ・地域住民の憩いの場や学びの場や都市農村交流の拠点として十分に機能している。

(2) 今後の課題等

- ・農産物のブランド化や施設を利用したイベント開催等を推進し、さらなる地域の魅力と情報発信を高めることが必要である。
- ・新東名高速道路や三遠南信自動車道の全面開通に向けて、地域施設と連携を図りながら県内外からの交流人口を増やしていくための更なる取組みが必要である。

(3) 同種事業への反映等

- 本事業での効果が得られた地域活性化の取組を、中山間地域総合整備事業等の実施に反映させていく。

田園整備事業 奥浜名湖地区 位置図

縮尺 1:200,000

凡 例

<整備工種>

農道整備

農業集落道整備

農村公園緑地整備

集落水辺環境整備

集落緑化施設整備

コミュニティ施設整備

景観保全整備

歩行者専用遊歩道整備

県内位置図

奥浜名湖地区

三遠南信自動車道

奥山轻便散策道

井の国里山
散策道

小斎藤ポケットパーク

門前ポケットパーク

天池ふれあい
水源

井の国公園

新東名高速道路

只木奥山散策道
ポケットパーク

みかんの里資料館

白きつね 親水広場

東名高速道路

みかんの里 農村公園
みかんの丘 景観展望所

条里いにしへの散策道

姫街道第2区間

沖通り田園
散策道

奥浜名湖田園
総合案内所

総合案内所
広場

姫街道第1区間

天竜浜名湖鉄道

凡 例



受益地



高速道路
(建設中)



天竜浜名湖鉄道

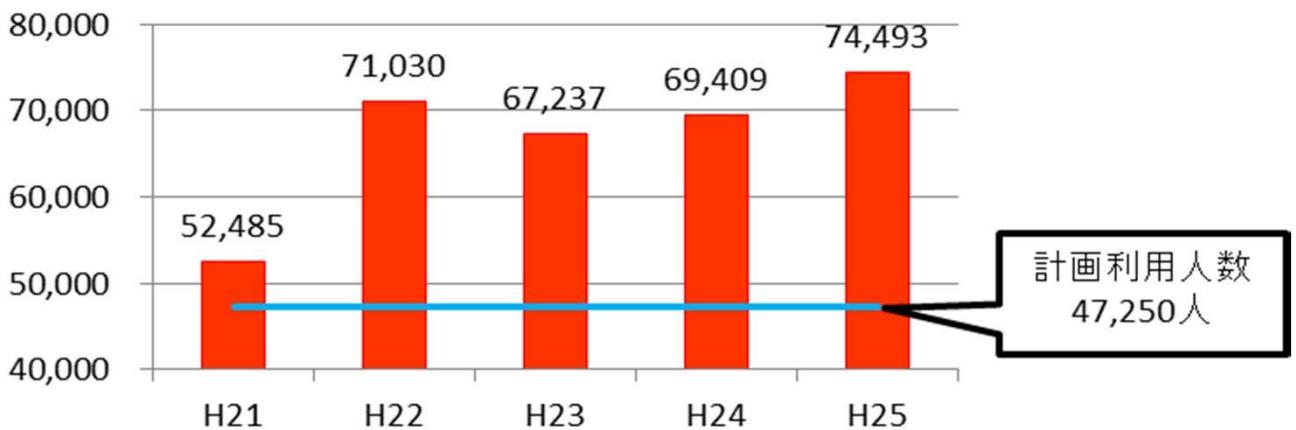
田園空間整備事業奥浜名湖地区 事業効果

地域一帯が屋根のない博物館

魅力ある田園空間の創造



奥浜名湖田園総合案内所 来訪者数(人)



●事業効果の発現状況

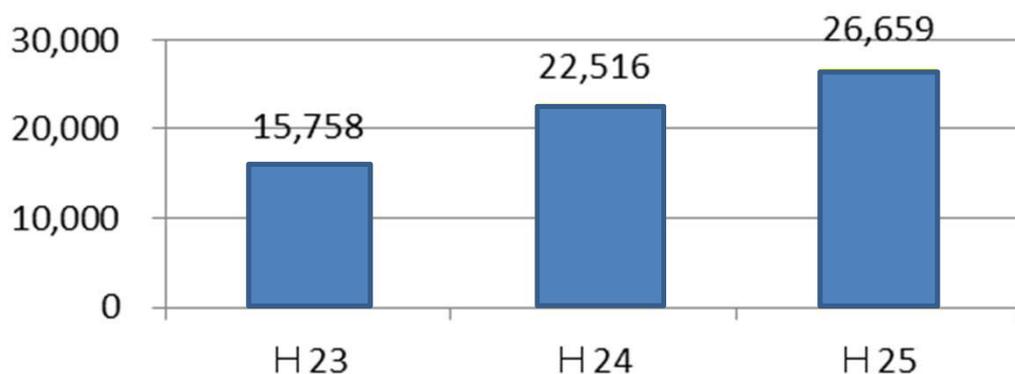


奥浜名湖田園総合案内所
* 直売所(旬彩市)



みかんの里資料館
* 農村学習の場として活用

奥浜名湖田園総合案内所 直売所売上高(千円)



●社会経済情勢等の変化



新東名高速道路・三遠南信道一部開通

【浜松市観光客数】

平成23年度 13,001千人
平成24年度 16,590千人

約3割増

【てんてんゴーしぶ川利用者数】

平成23年6～9月 2,743人
平成24年6～9月 3,730人

約4割増

●事業実施による環境の変化

みかんの里資料館



地域資源、散策コース等の情報発信
* 小さな旅: H25年度10回開催

田園空間総合案内所



天浜路ヘルシーウォーキングコースとして活用



一社一村しずおか運動の活動拠点

●社会経済情勢等の変化



農産物のブランド化、農村資源と観光資源のコラボレーションが実現



ふじのくに
美しく品格のある邑
Charming and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"

- ・三ヶ日
 - ・渋川
 - ・都田
 - ・中川
 - ・西四村
- 《5地区が登録》